



めざせ！ワンハート

みなさまへ

暑い夏がやってきました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。7月23日（金）からオリンピックが開催され、少しずつ社会全体に活気が戻ってきましたが、連休等が重なり、再び新型コロナウイルスの感染が拡大しつつある状況です。今まで通り、マスク、手洗い、手指消毒等を行い、感染予防に努めましょう。地域では、協議体再開に向けて、小さな単位で打合せをしたり、助け合い活動の創出にむけて動き出したりしている方も増えてきています。本号では、こうした活動の様子を掲載します。



協議体会議は群馬県の警戒度2で再開します

協議体会議は、今まで警戒度1で再開することになっていましたが、基準が見直され、警戒度2で協議体会議を再開することになりました。

**感染対策をしっかりと、
まずは無理せず、集まれる方で
集まりましょう。**

コロナ禍でなかなか地域の情報の共有が難しい状況が続いていました。コロナ禍で気づいた地域の変化等、地域の情報を協議体メンバーと少しずつ共有していきましょう。

協議体

コロナ禍で
生まれた
困りごとは？

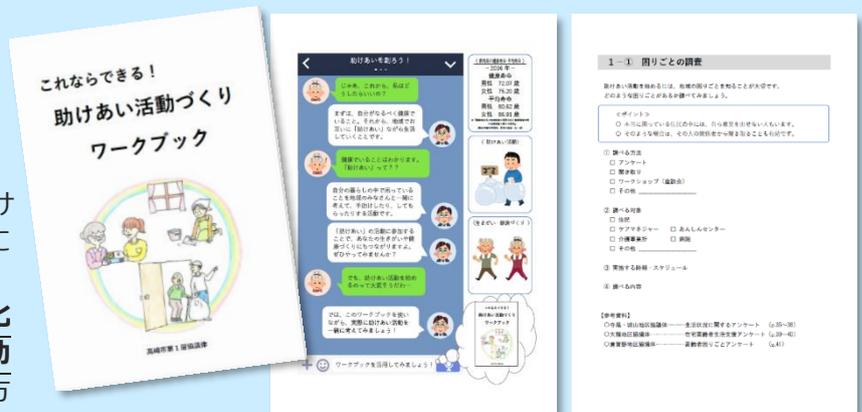
今だからこそ
どんなことが
できるだろうか？

地域の皆さんの
様子に変化は
ないだろうか？



**これならできる！
助け合い活動づくり
ワークブック
をぜひ活用してください。**

第1層協議体では、コロナ禍で助け合い活動づくりのきっかけのひとつになるようにワークブックを作成中です。**協議体再開時に話し合いを活性化**するきっかけとして、また、**新たな助け合い活動を創出してみたい**という方は、ぜひ、活用してみてください。



第1層生活支援コーディネーターよりお願い



生活支援コーディネーター通信は、市内外の協議体の取り組みや様々な助け合い活動を紹介したいと思っております。市内の活動で掲載して欲しい活動があればコーディネーターまでご連絡ください。その他、ご意見、ご感想もお寄せください。お待ちしております。また、**「新しく支え合い活動を立ち上げたい」、「既存の活動を今後どうしていけばよいのか困っている」**そうしたみなさんからの相談も第1層生活支援コーディネーターまでお気軽にお声がけください。

第1層協議体住民メンバーの取り組み



オンライン活用 LINE から ZOOM ミーティング に挑戦

令和3年2月～第1層協議体住民メンバーと第1層SCで毎月意見交換を実施しています。今回は初めてZOOMを使ってみました。初めて挑戦する方もいらっしゃいましたが、無事全員が参加できました。

第2層協議体との意見交換会の企画や高崎市との意見交換の企画、コロナ禍でも住民ができることを検討しました。



高崎市長寿社会課との意見交換

第1層協議体住民メンバーが、高崎市長寿社会課の事業担当者との意見交換会を開催しました。

意見交換の中では、協議体活動再開に向けた準備や今後の方向性について話し合いを行いました。

住民メンバーより「行政による協議体バックアップ体制の強化」「住民活動への後押しの必要性」「あんしんセンターが動きやすい体制づくり」などの意見があり、活発な意見交換ができました。今後、行政とあんしんセンター、社協と一体となって、この事業がより充実したものとなるよう、皆さんも一緒に頑張っていきましょう。

第1層協議体住民としては、コロナ禍でできることを模索しつつ、「**出向く第1層協議体**」として、第2層協議体メンバーと意見交換を行い、地域情報を共有し、事業継続や今後の方向性について検討を重ねていきます。



2層協議体メンバーとの意見交換計画

新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、8月25日に第1層協議体メンバーと倉渕地区で助け合い活動を行っている「くらしくらぶ」のメンバーとの意見交換会を開催する予定です。

地域の助け合いの輪を広げていくために、第1層協議体として情報収集をしていきます。



「第1層協議体メンバーと意見交換してみたい!!」という方は、第1層生活支援コーディネーターにご連絡ください。高崎市全体で支え合いの輪を広げていきましょう!!

住民主体の勉強会の開催

コロナ禍の中、地域における助け合い活動の必要性を感じている住民の皆さんが増えてきています。今回は、助け合い活動創出に向けた勉強会の様子を紹介します。



城東・東部地区

協議体の役割と助け合い活動の現状についての勉強会

協議体の役割について理解をより深めることを目的として、7月15日（木）に城東・東部地区協議体住民メンバーが主体となって、「協議体の役割と助け合い活動の現状」について、勉強会を開催しました。協議体の機能や役割、第2層協議体と第3層活動の違い等をSCより説明し、協議体に関する理解を深めました。勉強会后、城東地区では、昨年末に実施した大掃除の助け合い活動「たのも〜」の活動を日常的な助け合い活動に展開できるよう、参加しているメンバーで話し合いました。継続した助け合い活動が生まれそうです。



有償ボランティア「たのも〜」

ちょっとした困りごとを地域で解決するための有償ボランティア団体です。昨年末の大掃除の助け合い活動を契機として、今後も継続的に活動ができるよう、勉強会の後、役員選出や協力者の確認、役員会議の日程確認等を行いました。

中居・矢中地区

中居地区 住民メンバー勉強会

誰もが自分の住み慣れた中居地区で安心して暮らし続けるため、住民同士が助けたり、助けられたりできる共生社会を構築することを目指して、中居地区住民メンバー（愛称「中居リアン」）が中心となり、7月13日（火）に勉強会を開催しました。地域の支え合いの担い手の輪を広げるために、支え合いサポーターと中居地区ボランティアの会の方に声をかけ24名の方が参加しました。

勉強会開催前にコロナ禍後のボランティアに関するアンケートを実施したところ、「ボランティアといっても具体的にどんな事をするのかわからない」、「協議体の名前は知っているが、よくわからない」といった声もありました。今回の勉強会では、第1層SCより、助け合い活動が必要とされる背景や協議体について、市内で行われている助け合い活動について説明をしました。今後も、みんなで支え合いの輪を広げていきましょう。



中居リアンの山田さん

群馬地区さくら

地域住民同士で話し合い

「群馬地区さくら協議体」では、地域の皆さんがなるべく参加しやすい時間帯を模索し、昼と夜の2回に分けて地域の情報共有を行いました。今までの取り組みの成果や振り返り、今後の取り組みの方向性について意見交換しました。



群馬地区なのはな

地域住民同士で話し合い

「群馬地区なのはな協議体」では、住民の有志で集まり、地域の情報交換を行いました。あんしんセンターからの情報提供の他、既存の活動の状況や今後の協議体の在り方について話し合いを行いました。



地域資源とのあらたな連携について

市内で、新しく地域資源との連携を検討する地域も出てきました。本号では、群馬地区（なのはな協議体・さくら協議体）で、群馬郡医師会と協議体とが連携した「ドクターかふえ」の取り組みについて、紹介します。

群馬地区
なのはな さくら

地域のドクターとの連携

群馬郡医師会と協議体が連携。住み慣れた地域で暮らしていくための方策を検討し、**【ドクターかふえ】**を企画



地域包括研究会と
協議体住民メンバー
との打ち合わせ



協議体
住民数名

地域包括研究会 発足

地域住民に地域包括ケアシステムや人生会議（ACP）等について少しでも周知するための方法を考える研究会です。高崎市の生活支援コーディネーター、あんしんセンター、医師で月1回活発な意見交換を行ってきました。第2層協議体から住民へ徐々に周知して、地域の助け合い・地域包括ケアシステムの円滑化につながるよう取り組みます。

群馬郡
医師会

あんしん
センター

第1層
SC

住み慣れた地域で暮らしていくために医療と地域との連携を目指す

当日は、林クリニックの林先生、土岐医院の土岐先生に来ていただきました。地域のお医者さんから気楽に話を聞けることもあまりないので、当日は若い方から高齢者まで参加してくださいました。参加者からは「診察の際はなかなか時間がないので、ゆっくり話が聞けて良かった」「また、こうした場を設けてほしい」といった声もたくさん伺うことができました。



多職種の方々と壁を
作らず、あるなら取り払い、
地域住民の人生の最期が
よいものであったと思える
よう、少しでも手助けが
できたらと願っています。

林先生と土岐先生



発行元：高崎市第1層生活支援コーディネーター
連絡先：☎：027-321-1319（高崎市長寿社会課）

高崎市 HP「お互い様で支え合う地域づくり（生活支援体制整備事業）」
<https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2019011800019/>

